

法政大学社会学部が新入生に薦める
109冊 + 映画2本

2024年度版

法政大学社会学部を 志望するみなさん、入学されるみなさん

このリストは、「社会学部って何を学ぶの？」

「入学までにどんな準備をすればよいの？」

と思うみなさんに「まず手にとるべき本」を

薦める目的で作成されました。

昨年度、初めて作成した2023年度版には多数の関心を寄せていただき、どうもありがとうございました。

このリストは2023年度版の改訂版です。この改訂版にはこの4月からの新しい先生の分の追加や、昨年度分からの差替もあります。

さて、私たち社会学部には63名の専任教員がいます。広く社会科学を学ぶことのできる学部です。

教員の研究分野は社会科学を超えてさらに多岐にわたります。

このようにとても間口の広い学部ですから、その入口となる本も多種多様です。

社会学部2年生以降は、演習(ゼミ)という少人数の授業で指導を受けながら研究を進めることになります。

このゼミを2024年度も50名超の教員が開講する予定です。

社会学部への進学、転入学、編入学希望の方、現役学部生、さらには、

大学院社会学研究科や公共政策研究科への進学を目指す方にも参考になります。

どれからでも構いませんので、ここで薦める本をたくさん手にとって、

ぜひ一冊、二冊、三冊、四冊、・・・と読み進めて下さい。

少しでも心に残る本があれば、その本を薦めている教員の授業や研究の内容を調べることによって、

学問という深い森の中へ分け入ることができます。

そしてもし読んだ本を薦めた教員に出会ったら、ぜひ感想を話してみてください。

引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

社会学部長

宇野 斉

社会政策科学科

天本 哲史 行政法

テーマ：法解釈学、政策実現手段としての法

■ 碧海純一『法と社会—新しい法学入門』中央公論新社(中公新書 125)、1967年

【ひとこと】本書は法律学に分類される書籍ですが、「社会」の視点から法とは何かを概説したものです。法が社会をコントロールしますし、社会の要請が法を作り出しますので、「社会」をより知るためには、法の知識が必要になりますし、法と社会の関係を常に意識する必要があります。本書は、発刊から少々時が経ちましたが、難しい法律条文の読み方や法の解釈方法を扱いませんので、入学前であっても読みやすい本です。

岡野内 正 批判的社会理論、国際政治経済学、開発論、中東研究など

テーマ：歴史的正義回復とグローバル・ベーシック・インカムの理論

1 アザド・クディ、上野元美(訳)『この指がISから街を守った—クルド人スナイパーの手記』光文社、2019年(原著2019年)

2 ウェンディ・パールマン、安田菜津紀・佐藤慧(訳)『シリア 震える橋を渡って—一人々は語る』岩波書店、2019年(原著2017年)

【ひとこと】ウクライナもだけど、シリアはもっと長くてひどい。でも、人類の未来を照らす美しいものも生まれている。今も続く戦争のことを知ってほしい。いっしょに戦争をなくす勉強をしたい。2はインタビュー構成で、シリアの人びとの叫びが響いてやまない。1は女性が主人公のバリ・コミュニケーションの現代版、シリア北部の女性革命に参加した義勇兵の手記。虐殺の土壇場で立ち上がる女性たちが圧倒的。女をなめるな。世界はここから変わる。

加藤 寛之 地域産業論

テーマ：産業の国際分業・国際移転のリアルに迫る

1 沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略 新版』有斐閣(有斐閣アルマ)、2008年

2 鹿島茂『渋沢栄一(上：算盤編、下：論語編)』文藝春秋社、2013年

【ひとこと】経営学部や商学部への進学も視野に入れながら、幅広く学ぶことが出来る社会学部への進学を決めた入学生もいることと思いますが、これらはそうした学生の要望に応える書物です。沼上幹氏は社会学部出身で経営学者になったという異例の経歴で、社会学部の学生にとっても理解しやすいと思います。大河ドラマでも取り上げられた渋沢栄一は、パリの証券取引所を見学し、「銀行制度」と「株式会社制度と資本市場を組み合わせる」仕組みを日本に持ち帰りました。彼は金儲けには興味がなく、どうすれば日本に貢献できるかを追い求めて生涯を終えました。法政大学の設立にも関与した渋沢の生涯は、知っておいた方が望ましいと思います。

北浦 康嗣 理論経済学、公共経済学

テーマ：税、公共支出など政策効果の研究

1 大竹文雄編『こんなに使える経済学—肥満から出世まで』筑摩書房(ちくま新書 701)、2008年

2 佐藤雅彦・菅俊一・高橋秀明『行動経済学まんが—ヘンテコノミクス』マガジンハウス、2017年

【ひとこと】社会政策科学科では、さまざまな視点から物事を捉えることを学びます。上記の書籍を通じて「合理的」と「非合理的」の違いについて少しでもいいので理解してほしいと思います。

島本 美保子 環境経済学、森林問題

テーマ：世界の食料、森林、エネルギー等の資源管理

1 レスター・R・ブラウン、枝廣淳子(監訳)『カウントダウン—世界の水が消える時代へ』海象社、2020年

2 坂井豊貴『多数決を疑う—社会的選択理論とは何か』岩波書店(岩波新書 1541)、2015年

【ひとこと】環境問題は気候変動だけではなく、21世紀は水の世紀とも呼ばれ水問題は世界的に深刻です。解決のためにはカネと票をどう分配をすべきかを考えなければという方には多数決原理の弱点を見事に解説した坂井先生の著書がお勧めです。

白鳥 浩 政治学、国際政治学

テーマ：現代政治分析(市民・選挙・政党・国家)

■ プラトン、久保勉(訳)『ソクラテスの弁明・クリトン』岩波書店(岩波文庫 青601-1)、1964年

【ひとこと】政治学の始まりを知る書です。正義とは何でしょうか。こうした古典を学ぶことなく、現代を理解することは不可能であるといつてよいでしょう。古典の理論と現代の諸相を往還することは重要です。

中筋 直哉 地域社会学

テーマ：グローバル社会のローカリティ

1 荻野美穂『女のからだーフェミニズム以後』岩波書店(岩波新書 1476)、2014年

2 森山至貴『LGBTを読みとくークィア・スタディーズ入門』筑摩書房(ちくま新書 1242)、2017年

【ひとこと】社会の平等と多様性の実現をめざす市民運動の課題のなかで、一番身近で重要なのが性・ジェンダーです。女男の平等から性的多様性の実現へという社会の流れにつねに関心を寄せてくれるといいなと思います。

長沼 建一郎 社会保障法・社会保障論・保険論

テーマ：社会問題への政策的アプローチ 介護事故、公的年金と私的年金、保険と契約の結節

1 四方田犬彦『歳月の鉛』工作舎、2009年

2 中井久夫『新版 分裂病と人類』東京大学出版会(UPコレクション)、2013年

【ひとこと】1：稀代の映画評論家が、1970年代に送った陰鬱な大学生活を描く。夢と希望にあふれて大学生活をスタートして、失望・挫折するよりは、この暗く重苦しい地点からスタートした方が、よほど豊かな可能性が拓けるのではないか。2：精神科医による奇跡の書。人間の精神特性を、人類と日本の歴史・社会との関係で一挙に論じる。分裂病は、現在では統合失調症と呼ばれ、講義でも少し扱うが、実はそこに人間や社会を理解する狭き門がある。

増田 正人 国際経済・国際金融論

テーマ：グローバリゼーションを考える

1 エングルス、大内兵衛(訳)『空想より科学へー社会主義の発展』岩波書店(岩波文庫 白128-7)、1966年

2 明日香壽川『グリーン・ニューディールー世界を動かすガバニング・アジェンダ』岩波書店(岩波新書 1882)、2021年

【ひとこと】1は古典としての評価が高い文献で、社会主義について勉強するに際して現代から見ても最もよくできている入門書です。論理学として学ぶべき弁証法的唯物論の基本的な内容、その成り立ちが説明され、また、資本主義経済がどのような経済なのかを原理的に学ぶことができます。翻訳が古いので、やや難しいかもしれませんが、資本主義経済を批判的に考えてみるためには必読の文献です。2は、気候変動危機とグローバル経済との関係について考えさせられる文献です。なぜ気候変動危機がもたらされているのか、危機に対応するためにどうすればいいのか等を考えるにはとてもいい本です。

鞠子 茂 生態系生態学、植物生態学、環境科学

テーマ：eco検定受験、低炭素社会に寄与する生態系炭素隔離技術、外来植物の侵入と定着

■ キャスリン・マコーリフ、西田美緒子(訳)『心を操る寄生生物ー感情から文化・社会まで』インターシフト、2017年(原著2016年)

【ひとこと】前半では寄生生物が寄主生物の行動や振る舞いをコントロールするという神経寄生生物学的現象に関する研究事例を紹介し、後半では寄生生物が人間の心までも制御するとして文化論や社会論にまでこの現象を拡大議論しているが仮説の域を出ていない。賛否両論あるものの、21世紀に入って徐々に注目度が増している研究分野であること、社会科学にも影響を与えつつあることから一読する価値はある。

糸久 正人 イノベーション・マネジメント、標準化戦略

テーマ：社会における技術とイノベーションに関する研究

- 1 **ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド、上杉周作・関美和(訳)**
『FACTFULNESS(ファクトフルネス)―10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』日経BP、2019年(原著2018年)
- 2 **SSIR Japan**
『これからの「社会の変え方」を、探しにいこう。―スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー ベストセレクション10』英治出版、2021年

【ひとこと】社会課題を解決に挑戦する第一歩は、主観的バイアスに左右されず、データに基づいて社会を正しく認識することです。1は、こうした基本的な社会の見方について理解することができます。その上で、2は、革新的な方法で社会課題を解決するための考え方を俯瞰することができます。

恵羅 さとみ 産業社会学、国際社会学

テーマ：社会変動と産業・労働研究、国際移動

- 1 **宮島喬** 『「移民国家」としての日本―共生への展望』岩波書店、2022年
- 2 **佐藤真監督** 『阿賀に生きる』[DVD]1992年公開ドキュメンタリー映画

【ひとこと】1. 気付かぬうちに「移民大国」となっている日本、雇用・労働、家族形成、難民、第2世代、細切れに分断するカテゴライズの暴力を超えて、構造変化の下での複雑で多様な現実から移民政策の全体と日本社会のあり方を考えるために。2. 新潟水俣病というテーマを根底に阿賀野川の暮らしと人々を追ったドキュメンタリー。連子符社会学を超えて、場所と時間、生業と生活、生きること丸ごとについて考えることの大切さを感じることができます。

堅田 香緒里 社会政策、福祉社会学

テーマ：批判的社会政策論、貧困・ジェンダーをめぐる諸問題の分析

- 1 **西澤晃彦** 『貧者の領域―誰が排除されているのか』河出書房新社(河出ブックス)、2010年
- 2 **飯野由里子・星加良司・西倉実季** 『「社会」を扱う新たなモード―「障害の社会モデル」の使い方』生活書院、2022年

【ひとこと】1も2も、読むと、スルーしがちな「よくわからないもの」や「きもちわるいこと」について立ち止まって考えてみたくなるかもしれません。

高美智 映画研究

テーマ：映画・文化理論研究、表象分析

- 1 **マイケル・ライアン、メリッサ・レノス、田畑暁生(訳)** 『Film Analysis 映画分析入門』フィルムアート社、2014年(原著2012年)
- 2 **菅野優香(編著)** 『クィア・シネマ・スタディーズ』晃洋書房、2021年

【ひとこと】1は映像分析の基本を教えてくれる入門書。映像や音がどのような意味を作り出すのかを学ぶことができます。2は映画作品や表象の中でしばしば不可視化され隠蔽されてきた「性的マイノリティ」や「障害者」をクィア理論を用いて再発見する論考の論文集。理論や実践を映画研究にどう役立てるか、表象の政治性や歴史性をどうとらえるかなど、刺激的で役に立つ議論に触れることができます。

高橋 洋 エネルギー・気候変動政策

テーマ：再生可能エネルギー政策、脱炭素・エネルギー転換、電力自由化

- 1 **植田和弘** 『緑のエネルギー原論』岩波書店、2013年
- 2 **大島堅一** 『原発のコスト―エネルギー転換への視点』岩波書店、2011年

【ひとこと】エネルギーは必需財ですが、気候危機を受けて、その公正なあり方が問われています。現時点で化石燃料は不可欠ですが、それに基づくエネルギーシステムをどう転換させるかを考える上で、1は様々な論点を提供してくれます。特に原子力については、福島第一原発事故を受けてそのあり方が問われており、2は「社会的費用」の概念から原発の真のコストを検証しています。

多田 和美 国際経営論

テーマ: 国際社会における多国籍企業の経営戦略と組織

■ 坂下昭宣 『経営学への招待(新装版)』白桃書房、2014年

【ひとこと】 経営学の2つの柱—経営戦略論と経営組織論—について、分かりやすく著された入門書です。「まず、経営学はどのような学問か知りたい」という方にお薦めです。私自身も、学部生のときはまず本書から経営学を勉強しました。

谷本 有美子 地方自治・行政学・市民自治

テーマ: 人口減少社会における都市自治体の政策と市民自治

1 福岡伸一・伊藤亜紗・藤原辰史 『ポストコロナの生命哲学』集英社(集英社新書 1085)、2021年

2 成澤光 『生命倫理と公共政策』法政大学出版局、2019年

【ひとこと】 行政活動や地方自治の指針であり、時に人々の行動や多様な主体の活動を制限することもある公共政策の検討には、「生命」をどう考えるか、という究極の命題が存在します。科学技術の進展に伴い、医療政策が遺伝子レベルの問題にまで到達した今日では、それが人々の政策選択の際にも不可避な論点となりつつあります。日常では忌避されがちな「生」や「死」というテーマを、自身や身近な人々に関わる問題と捉え、自然の摂理や生命倫理などの観点から冷静に考えるきっかけとして一読をお薦めしたい2冊です。

ブラウン, ジョナサン 言語学、英語学

テーマ: 英作文、修辞学、コーパス言語学、談話分析、異文化間コミュニケーション

1 スティーブン・ピンカー、棕田直子(訳) 『言語を生みだす本能 上・下』NHK出版(NHKブックス 740・741)、1995年(原著1994年)

2 瀬戸賢一 『日本語のレトリック—文章表現の技法』岩波書店(岩波ジュニア新書 418)、2002年

【ひとこと】 One thing we all have in common is the capacity to create language, and it is language that connects us to one another. At the same time, however, language divides us, distinguishes us. Because of language's ability to both connect and divide, it is important to understand how it is utilized within our own culture so that we can use it effectively to not only express and shape our own identities but to better connect to the world around us.

ハン, ジョージ English Education

テーマ: Drama in English Education(ドラマ・演劇を取り入れた英語教育); Language Preservation and Revitalization(少人数言語の保護・復興)

1 近江誠 『感動する英語!』文藝春秋、2003年

2 近江誠 『英語コミュニケーションの理論と実際—スピーチ学からの提言』研究社出版、1996年

【ひとこと】 While language learning naturally involves grammatical mastery and vocabulary acquisition, that is only half the story. Oral Interpretation, similar to acting, gets at the emotional/intentional aspect of language, never losing sight of the motivations for speech acts and the need to create rapport between speakers and listeners. This is a vital, though often overlooked, component of language education.

社会学科

荒井 容子 社会教育学

テーマ：社会教育実践研究、社会教育法制度研究、成人教育・社会教育運動研究、公民館研究、社会教育職員研究

■ **デルフィーヌ・ミヌーイ、藤田真利子(訳)**『シリアの秘密図書館—瓦礫から取り出した本で図書館を作った人々』東京創元社、2018年(原著2017年)

【ひとこと】2013年末、自由を求めた若者たちが、政府による都市封鎖・無差別爆撃下、瓦礫と化した家々から本を集めて秘密の図書館をつくった。そこで本の貸し出しだけでなくさまざまな学習・文化活動を展開。自前でネットにつなぎ写真も発信。これをネットで見つけたトルコ在住のフランス人女性ジャーナリストが、かすかな電波をたよりに取材。知らなかったアラブの春以前の民主化運動にも学びつつ進めるこの生き生きとした「秘密」の文化運動を何とか記録し世界に伝えようと格闘。学習・文化運動の力、ジャーナリストの挑戦として、未来の糧にしたい内容にあふれています。その後、映像化もされました。

金原 瑞人 英語圏のエスニック文化

テーマ：創作(クリエイティブライティング)。小説や詩の創作を通じて、表現力の向上を図る

■ **大石大**『シャガクに訊け!』光文社、2019年

【ひとこと】ぼくは英文学や翻訳が専門で、社会学のことはまったくわかりません。そこでこれを。学生が相談室に持ってくる様々の悩みを社会学で解決するという発想が面白いし、ミステリとしてもうまく来ています。作者は法政大学社会学部の卒業生です。

菊澤 佐江子 家族社会学

テーマ：家族とライフコースに関する社会学的研究

■ **本田由紀**『「日本」ってどんな国?—国際比較データで社会が見えてくる』筑摩書房(ちくまプリマー新書 386)、2021年

【ひとこと】あなたがこの社会で「あたりまえ」と思っていることは、世界でも「あたりまえ」なのでしょうか。日本の社会をよりよく知りたいあなたへ、お薦めの一冊です。

斎藤 友里子 理論社会学・数理社会学・社会意識論

テーマ：ただしさの社会学

1 **ポール・ウィリス、山田潤(訳)**

『ハマータウンの野郎ども—学校への反抗・労働への順応』筑摩書房(ちくま学芸文庫)、1996年(原著1977年)

2 **ジェイ・マクラウド、南保輔(訳)**

『ぼくにだってできるさ—アメリカ低収入地区の社会不平等の再生産』北大路書房、2007年(原著1987年、1995年改訂)

【ひとこと】私たちは自分が社会で占める「位置」にどのようになじんでいくのか、私たちが自分の社会についてもっているイメージは「なじみ方」とどう関わるのか。そしてそれは格差の維持とどう関わっているのか。イギリス(1)とアメリカ(2)の事例を通して考える著作です。

佐藤 成基 比較ナショナリズム研究、歴史社会学、社会学理論

テーマ：ナショナリズムと国民国家

1 **中野敏男**『詩歌と戦争—白秋と民衆、総力戦への「道」』NHK出版(NHKブックス 1191)、2012年

2 **ジョージ・L・モッセ、佐藤卓己・佐藤八寿子(訳)**

『大衆の国民化—ナチズムに至る政治シンボルと大衆文化』筑摩書房(ちくま学芸文庫)、2021年(原著1975年)

【ひとこと】過去の歴史を題材に、ナショナリズムと一般の人々との間の、合理的な理屈を超えた絡み合いについて、具体的事例を豊富に挙げながら鮮明かつ印象深く描き出した著作。1は日本、2はドイツ(およびヨーロッパ)を扱っている。

澤柿 教伸 自然地理学・第四紀学

テーマ：自然環境変遷の解明と、その保全および適応

- 1 貝塚爽平『東京の自然史 <増補第二版・文庫版>』講談社(講談社学術文庫)、2011年
- 2 山崎晴雄・久保純子『日本列島100万年史—大地に刻まれた壮大な物語』講談社(ブルーバックス)、2017年

【ひとこと】書籍1は1964年の初版後1979年に増補されて2011年に文庫化。半世紀以上読み継がれているロングセラー。人気番組「プラタモリ」のような視点で、人類誕生前後から近代にかけての関東一円の地形変化を解き明かします。首都圏から進学する人も地方から東京へ出てくる人も、これから4年間の学び舎の足下の自然がどんな経歴をへているのかを確かめておくと、より広い視野で社会をみつめることができるようになります。書籍2と併せて読むと、日本列島全体にまで知見を広げ、書籍1以降の発展で既知の知見が更新・上書きされていく学術的な営みにも触れることができ、それが大学での学びにつながっていきます。

愼 蒼宇 朝鮮近代史・植民地研究

テーマ：歴史と現代社会

- 1 藤野裕子『民衆暴力—一揆・暴力・虐殺の日本近代』中央公論新社(中公新書 2605)、2020年
- 2 吉澤南『海を渡る“土兵”、空を飛ぶ義和団—民衆文化と帝国主義』青木書店(シリーズ中国にとっての20世紀)、2010年

【ひとこと】私たちの生きる現代世界には、戦争からヘイトクライム、虐待に至るまで多くの暴力が存在しています。1は明治以降の新政反対一揆、日比谷焼打ち事件、関東大震災時の朝鮮人虐殺などを例に、近代日本の「民衆」はなぜ、どのように、国家・支配層という強者に対してだけでなく、自分たちよりも劣位に置かれていた朝鮮人への暴力を行使したのかを論じた新書で、2は20世紀初頭に中国の山東省を舞台に発生した中国民衆と帝国主義列強との軍事衝突(義和団戦争)を、現代の多国籍軍による民衆への軍事暴力行使(湾岸戦争や対テロ戦争)の歴史的起源として描いた歴史学の名著です。

鈴木 智之 社会学理論、文化社会学

テーマ：物語言説の社会的分析。生活史研究、文学の社会学、記憶の社会学。病いの語りの社会学。

- 1 上間陽子『裸足で逃げる—沖縄の夜の街の少女たち』太田出版(at叢書)、2017年
- 2 宮野真生子・磯野真穂『急に具合が悪くなる』晶文社、2019年

【ひとこと】1は、沖縄の風俗業界で働く女性たちへのインタビュー調査の記録。人に出会い、生の現実に触れるフィールドワークの感触を体感してほしい。2は、人類学者とがんを患う哲学者との往復書簡。生の偶発性を生きることの意味を問い直し、リスク論的思考に抗う壮絶な思考の記録。

鈴木 麻美 数学(函数論、関数方程式)

テーマ：社会が必要とする「数学的思考力」を考える

- 1 サイモン・シン、青木薫(訳)『フェルマーの最終定理』新潮社(新潮文庫)、2006年
- 2 遠山啓『文化としての数学』中央公論新社(中公文庫)、2021年

【ひとこと】1：人類の歴史と同じだけ深く、今も広がり続けている数学の壮大さを感じてほしい。現代社会で唯一ともいえる国境・法律・思想など一切の壁を持たず、公平で自由な学問の数学の素晴らしさを実感できるでしょう。2：数学とはいかなる物なのかという事について著者の考えと、人間社会の文化との関連性についても具体例を交えて書かれている。

武田 俊輔 文化社会学、都市社会学、地域社会学、メディア論

テーマ：地域社会を文化・メディアの観点から考える

- 1 石岡丈昇『ローカルボクサーと貧困世界—マニラのボクシングジムに見る身体文化』世界思想社、2012年
- 2 植田今日子『存続の岐路に立つむら—ダム・災害・限界集落の先に』昭和堂、2016年

【ひとこと】1は貧困地域に生きるボクサーのエスノグラフィ。彼らと寝食を共にした参与観察に基づき、その場においまでもが浮かび上がるような筆致で、彼らが対峙する世界が描き出される。2は危機に瀕したムラにいきる人びとの振る舞いや語りから、人の一生の時間的スケールを超えた「むら」の存続の意味が浮かび上がってくる。優れたフィールドワークの成果として私自身が愛読してきた作品。

田嶋 淳子 国際社会学、移民・エスニシティ研究

テーマ:東アジアにおけるグローバル化と日本社会の変容を移住の視点から研究

- 1 田中宏 『在日外国人 第三版—法の壁、心の溝』岩波書店(岩波新書 1429)、2013年
- 2 永吉希久子 『移民と日本社会—データで読み解く実態と将来像』中央公論新社(中公新書 2580)、2020年

【ひとこと】1は統計などはちょっと古いのですが、日本の過去における外国人問題とはいかなるものが包括的に理解できます。それを読んだ上で2を読むと、これからの日本社会で移民問題をどう考えればよいのか、考えるヒントがもらえると思います。

徳安 彰 社会システム論

テーマ:社会現象を人間と社会システムの2つの視点から見る

- 1 アミン・マアルフ、小野正嗣(訳) 『アイデンティティが人を殺す』筑摩書房(ちくま学芸文庫)、2019年(原著1998年)
- 2 筒井淳也 『社会を知るためには』筑摩書房(ちくまプリマー新書359)、2020年

【ひとこと】1は、レバノン生まれ、フランス在住の作家によるアイデンティティ論。グローバル化の時代に、アイデンティティの多様性のもつ複雑さと残酷さの中で、どう生きるのかを考えさせられる。2は、社会学が扱う「社会」をどう捉えたらいいのか、「緩さ」をキーワードに「社会」と向き合う姿勢を考えさせられる。

濱中 春 ドイツ文学、表象文化論

テーマ:風景と場所の表象文化

- 1 多和田葉子 『エクソフォニー—母語の外へ出る旅』岩波書店(岩波現代文庫 文芸211)、2012年
- 2 夏目房之介 『マンガはなぜ面白いのか—その表現と文法』NHK出版(NHKライブラリー 66)、1997年

【ひとこと】1は外国語を知ることの意味について、2はマンガの読み方について、いつもとは違う視点が得られるかもしれません。

樋口 明彦 コミュニティ政策論

テーマ:コミュニティ

- 1 武田百合子 『富士日記(上)(中)(下)』中公文庫、2019年(初版1981年)

【ひとこと】読むと、ひとに会いたくなります。

平塚 眞樹 教育学、人間形成とりわけ若年移行期研究

テーマ:〈おとなになる〉ということ～現代社会とひとの育ち・自立・教育～

- 1 エリック・クリネンバーグ、藤原朝子(訳) 『集まる場所が必要だ—孤立を防ぎ、暮らしを守る「開かれた場」の社会学』英治出版、2021年(原著2018年)

【ひとこと】現代の米国で「あらゆる人が集まれる場所をつくることは、ばらばらに砕けた社会を修復する最善の方法だ」と考える著者が、人のつながりが育つ物理的条件として「社会インフラ」に着目。図書館、緑地、学校、市民プールなどのフィールドワークから、その価値と可能性を表した本。異種交流を促す場として大学の「キャンパス」も取り上げられていて、多摩キャンパスの皆さんと一緒に読みたくなった。

二村 まどか 国際関係論、国際安全保障、国際刑事裁判

テーマ:国際平和と武力紛争、平和構築

- 1 E. H. カー、清水幾太郎(訳) 『歴史とは何か』岩波書店(岩波新書 青版D-1)、1962年
- 2 デイビッド・ヒューム、佐藤寛(監訳) 『貧しい人を助ける理由—遠くの子とあなたのつながり』日本評論社、2017年

【ひとこと】1は、国際関係学の古典『危機の二十年』の著者でもあるE.H.カーの著書です。混沌とした国際情勢において、今日的視点から過去の出来事を振り返ることの意義、そして歴史の教訓の意味について考えさせられます。2は、「開発援助」「貧困問題」に焦点を当てていますが、自国第一主義を排し、国際問題に関心をもって取り組むことがなぜ必要なのかについて、考えるきっかけとなる一冊です。

堀川 三郎 環境社会学、都市社会学

テーマ：歴史的環境保存、まちづくり、住民運動・公害被害地の追跡調査

- 1 原田正純 『水俣病』岩波書店(岩波新書 青版B-841)、1972年
- 2 水村美苗 『増補 日本語が亡びるとき—英語の世紀の中で』筑摩書房(ちくま文庫 み-25-4)、2015年

【ひとこと】 1は岩波新書の「絶対名著」にも選ばれたロングセラー。環境社会学の原点を考えるうえでも、日本の戦後社会を考えるうえでも、おおいに参考になるでしょう。2は、タイトルで敬遠してはいけません。なぜ私たちは英語を学ぶのか、言葉は私たちの思考をどのように司っているのか—こうした大切な問いに、水村は全力で向き合います。もたらされたのは、明晰で澄んだ思索の軌跡です。

三井 さよ 臨床社会学、ケア・支援論

テーマ：医療・福祉をめぐる社会問題への相互行為論的アプローチ

- 1 布施えり子 『キャバ嬢なめんな。一夜の世界・暴力とハラスメントの現場』現代書館、2020年
- 2 村瀬孝生 『シンクロと自由』医学書院、2022年

【ひとこと】 1は「あたりまえ」のことをきちんと「あたりまえ」に考えようとした本です。2は、一見すると不自由で失敗だらけに見えることの中にこそ自由があるということを描いた本です。どちらも読むとちょっとだけ元気が出ると思います。

吉村 真子 アジア研究、東南アジア地域研究

テーマ：国際社会の諸問題(とくにアジアにおける社会・経済・政治・文化など)

- 1 伊豫谷登士翁 『グローバリゼーション—移動から現代を読みとく』ちくま書房(ちくま新書)、2021年
- 2 ブレイディみかこ 『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』新潮社、2019年

【ひとこと】 1は、グローバリゼーションにおける移民・難民の急増、自国第一主義や排外主義、格差の拡大などの問題について、人の移動から読み解いていきます。2は、人種も貧富の差もごちゃまぜの英国の元底辺中学校に通い始めた「ぼく」の日常から、多様性について考えるきっかけとなる本です。いろいろな本から、国際社会の状況や構造について、見て、知って、考えてみてください。

鈴木 智道 歴史社会学、教育社会学

テーマ：〈日常生活〉の社会学、教育現象の歴史社会学的研究

- 1 E. H. カー、清水幾太郎(訳) 『歴史とは何か』岩波書店(岩波新書 青版D-1)、1962年(原著1961年、別の訳者による新版[2022年]もある)
- 2 野家啓一 『歴史を哲学する—七日間の集中講義』岩波書店(岩波現代文庫 学術342)、2016年

【ひとこと】 「歴史」って一体何なのでしょう?—社会学ではこんなことを考えたりすることもできます。学校で教わる「日本史」とか「世界史」の“知識”だけが「歴史」ではありません。1は歴史学者による連続講演の記録、2は哲学者による講義ふうの本です。社会学を学ぶ上で、こうした他領域からの知的刺激も重要です。難解だと感じるかもしれませんが、そうした「背伸び」からはじめてみるのも一興だと思います。

高橋 愛 フランス文学

テーマ：フランス自然主義文学と視覚芸術の関係

- 1 田中克彦 『ことばと国家』岩波書店(岩波新書 黄版175)、1981年
- 2 白水社編集部 『「その他の外国文学」の翻訳者』白水社、2022年

【ひとこと】 さまざまな言語や文化、社会を通して、世界をいろんな方向から複眼的に眺める大切さ、その面白さを教えてくれる2冊です。

土倉 英志 社会心理学、認知科学、質的心理学

テーマ：創造性、経験による学習・創造による学習、コミュニティデザイン

- 1 尾崎由佳 『自制心の足りないあなたへ—セルフコントロールの心理学』ちとせプレス、2020年
- 2 佐伯胖編 『「子どもがケアする世界」をケアする—保育における「二人称的アプローチ」入門』ミネルヴァ書房、2017年

【ひとこと】社会心理学を学ぶとは、人の心というとらえがたいものに、どうしたら迫れるのか(迫れないのか)を学ぶことだと言えます。社会心理学でよく用いられる研究手法に心理学実験と心理尺度があります。他にも重要な手法としてフィールドワークが挙げられます。一冊目は心理学実験や心理尺度を用いた研究のおもしろさを、二冊目はフィールドワークを用いた心理学研究のおもしろさを感じさせてくれる本です。

佐藤 修一 英語学、英文学

テーマ：英語史、中世からルネサンスにかけての英語・英文学、ビート・ジェネレーションの作家・作品

- 1 デイヴィッド・クリスタル、国弘正雄(訳)
『地球語としての英語』みすず書房、1999年(原著English as a Global Language. 1997.より新しい版(2nd edition. 2012)あり)
- 2 アンドルー・ワイル、上野圭一(訳)
『ワイル博士のうつが消えるころのレッスン』角川書店、2012(原著Spontaneous Happiness. 2011)

【ひとこと】1. 英語が外国語として学ばれる主な理由は世界規模で通用するという有用性ではないでしょうか。本書は英語が広がった背景を多角的に説明しています。2. 精神面の健康は大学生活を送る上で非常に重要ですが一般には十分な関心が払われていない気がします。本書は精神的健康を維持するために必要な知識やライフスタイルについて広範かつ具体的に教えてくれます。1、2共、英語が苦手でない方には原著もお勧めです。

村上 佳恵 日本語学、日本語教育

テーマ：現代日本語の文法

- 1 庵功雄 『やさしい日本語—多文化共生社会へ』岩波書店(岩波新書 1617)、2016年
- 2 田中克彦 『漢字が日本語をほろぼす』角川マーケティング(角川SSC新書 126)、2011年

【ひとこと】どちらも「言語が社会で果たす役割」という観点から言語のあるべき姿について論じている本です。1は、移民の受入の前提として日本語をどのように運用していく必要があるのか考察したものです。2は、タイトルの通り「漢字が日本語を滅ぼす」という漢字廃止論者の言語学者の日本語論で、諸外国語についても扱われており、難解な内容をおもしろく読める一冊です。

メディア社会学科**青木 貞茂** 広告学

テーマ：高度消費社会における広告プランニング研究

- 1 佐藤卓己 『輿論と世論—日本的民意の系譜学』新潮社(新潮選書)、2008年
- 2 佐藤卓己 『メディア論の名著30』筑摩書房(筑摩新書 1530)、2020年

【ひとこと】2つの本は、大学でメディアについて学ぶための前提となる基礎知識とセンスを養うために、とても役に立つと思います。高校までの教科書に基づいて暗記を中心にした学びではなく、常識や思い込みを当たり前のものとして受け入れず、対象を疑い批判的に捉え考えるための学びとはどういうことかが、メディアに関して具体的に理解できる著作です。

荒木 暢也 米国ジャーナリズム研究

テーマ：米国報道メディア情報にみる日本像

- 1 D.J.ブーアスティン著、星野郁美・後藤和彦(訳)
『幻影(イメージ)の時代—マスコミが製造する事実』東京創元社(現代社会科学叢書)、1964年(原著1962年)
- 2 アン・ケース、アンガス・ディートン著、松本裕(訳)
『絶望死のアメリカ—資本主義がめざすべきもの』みすず書房、2021年(原著2020年)

【ひとこと】1. ダニエル・ブーアスティン(Daniel J. Boorstin)による20世紀アメリカ論の一つ。ジャーナリズム研究の基本文献であり、この機会に是非、原著“The Image: A Guide to Pseudo-Events in America, Vintage; Reissue, 1992年”にも触れて欲しい。2. アメリカ社会の格差と苦悩を論じた近著。

宇野 斉 組織行動科学、社会ネットワーク論、経営学

テーマ:会社や地域等の様々なネットワークや組織の構造、行動、変化を探る

- 1 マシュー・O・ジャクソン、依田光江(訳)『ヒューマン・ネットワーク—人づきあいの経済学』早川書房、2020年(原著2019年)
- 2 木下是雄『理科系の作文技術』中央公論新社(中公新書 624)、1981年

【ひとこと】1の原著タイトルは“THE HUMAN NETWORK How Your Social Position Determines Your Power, Beliefs, and Behaviors”です。“経済学”は入っていません。2は社会科学でも通常利用されている“横書き”で表現する上でより分かりやすいです。

大崎 雄二 現代中国における国民統合・民族政策

テーマ:現代中国(東アジア)地域研究

- 1 横山宏章『中華思想と現代中国』(集英社新書 0164B)、2002年
- 2 葛兆光、辻康吾(監訳)・永田小絵(訳)『完本 中国再考 領域・民族・文化』岩波書店(岩波現代文庫 学術439)、2021年

【ひとこと】この分野、一知半解のインチキ書、トンデモ本だらけです。inputなしにoutputなし。まず図書館であらゆる本を濫読してみてください。面白く読める本が今のあなたのレベルに合致した(少しだけ難しい程度の)「発達の最近接領域」(L.S.ヴィゴツキー)にあるもの。疲れたところで、この本で改めて「目盛りを0」にして「再起動」してみましょう。

金井 明人 認知科学・人工知能と映像の修辞学

テーマ:映像と物語に関する認知科学

- 1 フレデリック・ワイズマン監督『ニューヨーク公共図書館 エクス・リプリス』2017年公開ドキュメンタリー映画

【ひとこと】図書館・文献と社会の関係についての3時間半に渡るドキュメンタリー。それだけでなく、映像やメディア、そしてその受け手について考え直すきっかけに成りえる作品です。

小林 直毅 メディア研究、テレビアーカイブ研究

テーマ:メディア表象としての現代社会を読み解く

- 1 ヤーコブ・フォン・ユクスキュル、ゲオルク・クリサート、日高敏隆・羽田節子(訳)『生物から見た世界』岩波書店(岩波文庫 青943-1)、2005年(原著1934年)
- 2 カル・ニューボート、池田真紀子(訳)『デジタル・ミニマリスマホに依存しない生き方』早川書房(ハヤカワ文庫 NF573)、2021年(原著2019年)

【ひとこと】「メディア」などともっともらしくいっても、それがいったい何なのかを考えなければメディアを学ぶ出発点にすら立てません。それに必要な視点は、メディアなどというものがまったくない状態を広く、深く考えてみるころあります。そこから、今日の「メディア」が、メディアの何をダメにしているのかを考えていくために、この2冊はとともよい本です。

謝 荔 文化人類学、中国・日本社会の生活文化の比較研究

テーマ:文化政策と文化の継承および変容

- 1 ジョイ・ヘンドリー、桑山敬己・堀口佐知子(訳)『〈増補新版〉社会人類学入門—多文化共生のために』法政大学出版局、2017年(原著2016年)
- 2 湯浅邦弘編著『テーマで読み解く中国の文化』ミネルヴァ書房、2016年

【ひとこと】1は人類学の視点と民族誌的事例(日本を含む世界各地の諸民族の現地調査の成果)を盛り込んだ、独学でも人類学の世界に飛び込める入門書です。2は中国の漢字、世界(文化)遺産・宗教と民間信仰、医学などのテーマを取り上げ、その基本的特質を解説する一冊です。どちらも興味や関心のある部分を拾い読みするだけでも、自他文化の比較による新しい発見をすることができます。

鈴木 宗徳 社会学史、理論社会学

テーマ:現代における批判的社会理論の課題

- 1 荒井裕樹『凜として灯る』現代書館、2022年

【ひとこと】『まともでない言葉を生きる』や『障害者差別を問いなおす』でも知られた著者による、米津知子の評伝。障害者でありウーマンリブの活動家であった彼女は、なぜモナリザ・スプレー事件を起こしたのか? 優生保護法改悪をめぐるリブと障害者運動のあいだの論争とは? ほんの2時間で読めてしまう本だが、差別と闘うことの困難について胸に迫ってくる物語。

藤代 裕之 ソーシャルメディア論、ジャーナリズム論

テーマ:ソーシャルメディア時代の「伝え方」を考える

- 1 シナン・アラル、夏目大(訳)『デマの影響カーなぜデマは真実よりも速く、広く、力強く伝わるのか?』ダイヤモンド社、2022年(原著2020年)
- 2 デイヴィッド・パトリカラコス、江口泰子(訳)『140字の戦争—SNSが戦場を変えた』早川書房、2019年(原著2017年)

【ひとこと】1は、ソーシャルメディアを学ぶなら必読。マーケティングやデータサイエンスの研究者で、起業家でもあるMIT教授がソーシャルメディアの仕組みを解明した冒険のような本。2はジャーナリストがソーシャルメディアによる情報戦取材したもの。ロシアのプロパガンダ手法も紹介されている。

藤田 真文 コミュニケーション論、メディア論

テーマ:マス・メディア(テレビ)のテキスト(内容)分析

- 1 北村紗衣『批評の教室—チョウのように読み、ハチのように書く』筑摩書房(ちくま新書 1600)、2021年
- 2 森山至貴『LGBTを読みとく—クィア・スタディーズ入門』筑摩書房(ちくま新書 1242)、2017年

【ひとこと】テレビドラマ研究という私の研究テーマに寄せてみました。1の北村さんの本は、小説を批評するために必要なプロセスを書いたものです。映画やテレビドラマにも応用できます。現在テレビドラマを研究するには、ジェンダーの視点は重要です。2の森山さんの本は、論点がコンパクトにまとめられています。

別府 三奈子 ジャーナリズム規範の国際比較研究、写真研究

テーマ:負の遺産とジャーナリズムの記録の連関に関する調査と分析

- 1 マーティン・ファクラー『データ・リテラシー』光文社新書、2020
- 2 澤康臣『事実はどこにあるのか』幻冬舎新書、2023

【ひとこと】公共性の高いニュースをめぐる環境が大きく変わってきています。民主社会を支えているプロフェッショナル・ニュースの送り手たちの、IT化ならではの新たな試みと成果の大きさを伝える書籍です。

諸上 茂光 消費者心理学、脳認知科学

テーマ:脳科学に基づいた視点から、消費者心理・消費者行動の分析を行い、効果的なマーケティングや広告手法の提案を行う

- 1 マーク・ジェフリー、佐藤純・矢倉純之介・内田彩香(訳)『データ・ドリブン・マーケティング—最低限知っておくべき15の指標』ダイヤモンド社、2017年
- 2 パトリック・ファーガン、上原裕美子(訳)『#HOOKED 消費者心理学者が解き明かす「つい、買ってしまった。」の裏にあるマーケティングの技術 (T's BUSINESS DESIGN)』TAC出版、2017年

【ひとこと】2の方が読みやすいと思います。1も読んでみると、「メディア分析コース」の視点がなんとなく掴めるかもしれません。

越部 清美 舞踊教育学、体育科教育学

テーマ:身体文化について考える/体験する

- 1 多木浩二『スポーツを考える—身体・資本・ナショナリズム』筑摩書房(ちくま新書 047)、1995年
- 2 野口晴哉『風邪の効用』筑摩書房(ちくま文庫)、2003年

【ひとこと】1は、「スポーツ」について身体・資本・ナショナリズムの視点から書かれた本です。スポーツと社会の関係について興味深く考えることができる内容になっています。2は、「風邪」の本質を説いた本です。自身の体への向き合い方、健康について、しっかり考えてみてください。

白田 秀彰 情報法・知的財産権法

テーマ:情報社会と情報産業の調査研究、プレゼンテーションの技法

- 1 和田仁孝『法社会学』新世社(新法学ライブラリー 27)、2022年
- 2 勝田有恒・森征一・山内進(編著)『概説 西洋法制史』ミネルヴァ書房、2004年

【ひとこと】基本書を挙げよと指示されましたが、どうにも思い当たらないので、読んでおいてほしいなと思う本を挙げました。どちらも基本書というにはややマニアックなので、これらの本を読んですぐに理解できる学生さんなら、私の講義は楽勝だと思います。

土橋 臣吾 メディア論、コミュニケーション論

テーマ: デジタルメディアの実践的研究

- 1 **ドミニク・チェン** 『脳のレリギオービッグデータ社会で心をつくる』NTT出版、2015年
- 2 **緒方壽人** 『コンヴィヴィアル・テクノロジー—人間とテクノロジーが共に生きる社会へ』BNN、2021年

【ひとこと】どちらも今日の流動的なメディア技術を考える上で指針を与えてくれる本です。

橋爪 絢子 感性工学、ユーザ中心設計

テーマ: 実文脈におけるユーザの状況や行動の調査と分析

- 1 **佐倉統** 『科学とはなにか—新しい科学論、いま必要な三つの視点』講談社(ブルーバックス)、2020年
- 2 **Susan Weinschenk、武舎広幸・武舎るみ・阿部和也(訳)**
『インタフェースデザインの心理学(第2版)—ウェブやアプリに新たな視点をもたらす100の指針』オライリー・ジャパン、2021年

【ひとこと】1は、これまで人々がどのように科学と関わってきたかと、今後のあり方がまとめられています。科学との向き合い方を考えるきっかけにしたいです。2は、人間の心理や行動原理に基づいて、デザイン(設計)の指針をまとめた本です。デザインを考えるうえで押さえておくべき心理学の知見が学べます。なお、原本の第2版は2020年(原本の初版は2011年、訳本の初版は2012年)。

森 幹彦 知能情報学、人間情報学

テーマ: 人間活動のセンシング・分析と活動支援のための情報システム、教育学習支援システム

- 1 **川喜田二郎** 『発想法(改版)—創造性開発のために』中央公論新社(中公新書 136)、2017年(初版1967年)
- 2 **鈴木克明・美馬のゆり(編著)** 『学習設計マニュアル—「おとな」になるためのインストラクショナルデザイン』北大路書房、2018年

【ひとこと】1は、研究を進めるにあたって調査から論文化までを遂行するために必要な考え方が示された古典的名著です。パンチカードなど古くさい内容があっても未だ色褪せません。これをICTで代替する方法を考える中でも様々な気づきがあります。2は、自律的な学習が必要な大学において「学ぶことを学ぶ」ためのマニュアルでありワークブックです。1、2とも、人間の知的活動の支援システムを研究する上でも必読です。

李 舜志 教育学、哲学

テーマ: メディアによる人間形成と記憶の継承

- 1 **田中智志・今井康雄(編著)** 『キーワード 現代の教育学』東京大学出版会、2009年
- 2 **オルダス・ハクスリー、黒原敏行(訳)** 『すばらしい新世界』光文社(光文社古典新訳文庫)、2013年(原著1932年)

【ひとこと】1は哲学や歴史、思想史の観点から教育について考える本。カリキュラムや教師論だけでなく、美や悪などもテーマとして扱われており、ひろく人間形成一般について深く学べます。2はいわゆるディストピア小説ですが、ハラハラドキドキするだけでなく、科学技術の進歩、人間の弱さの意味、幸福と不幸のかたちなど様々な問題が提起されており、とても面白い小説です。

大森 翔子 政治コミュニケーション論、政治行動論

テーマ: メディア接触と社会・政治意識の関係

- 1 **稲増一憲** 『マスメディアとは何か—「影響力」の正体』中央公論新社(中公新書 2706)、2022年
- 2 **久米郁男** 『原因を推論する—政治分析方法論のすゝめ』有斐閣、2013年

【ひとこと】1はマスメディアの「効果論」について、古典的な研究から近年の研究成果に至るまで、わかりやすい解説がなされており、メディア効果論を学ぶ入口としてもおすすめの1冊です。2は、あらゆる現象が起きる「原因」は何であるかを探るときに必要な考え方が示されています。タイトルに「政治」とありますが、政治に限らず、社会で起きる様々な現象を思い浮かべながら、パズルで遊ぶように思考を楽しんでいただけたらと思います。

